

SHIRAKOBATO

しらこぼと



1998. 7

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 171

日本野鳥の会 埼玉県支部

フィールドガイド 西新井の森 (第2報)

ここでの野鳥観察記録は、本誌1996年2月号で「自然を感じる昼休み」と題して紹介しました。あれから約2年、性懲りも無くいまだに昼休み探鳥を続けています。データも大分たまり、記録種類数も増えましたので、再び紹介いたします。自分ではラインセンススのつもりで同じ時刻、同じコースで観察していますが、季節毎の観察回数や歩く速度もまちまちで、その点ご容赦願います。

「西新井ふるさとの緑の景観地」(以下西新井の森という)は大宮市の北西部、大宮花の丘公園の西側に隣接して広がる、大宮市内では最も広い雑木林の地域とのことです。毎年冬に1回開かれる「大宮市・花の丘公園探鳥会」で歩くところです。職場がこの近くという幸運に恵まれ、時間の許す限り昼休みに野鳥観察を行っています。コースは、地図に示すとおりで、「スタート」地点からA→B→C→D→E→F→Gときて、その後はB→A→「スタート」地点へ戻ります。時間は、12時20分から12時50分頃までですが、途中で珍しい鳥、花、

昆虫(ときには毒ヘビ、ガマカエル)などに出会うとそこで立ち止まってしまうので、後半は駆け足になってしまうこともあります。

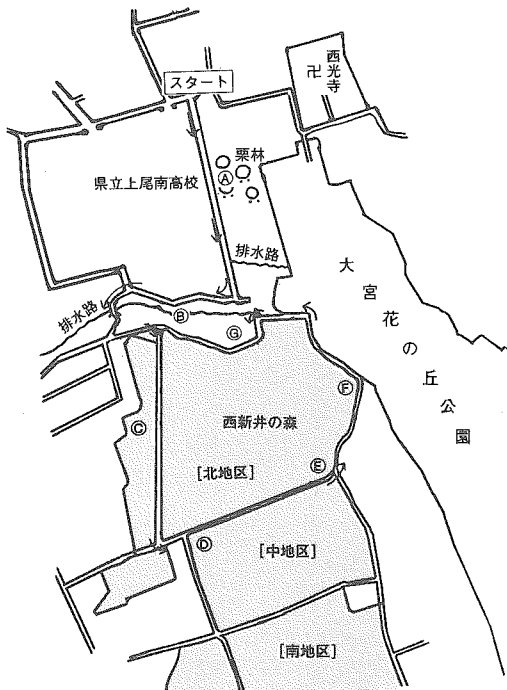
観察記録は、右表に示すとおりで、表示年の前年12月から表示年の2月までを冬、3～5月を春、6～8月を夏、9～11月を秋として集計しています。誌面の都合で、1回だけしか見られなかった鳥14種と約7割以上の確率で見られている鳥8種は省略しています。

〔1回だけの鳥(観察年月):ゴイスギ(96/05)、ダイサギ(96/06)、チョウゲンボウ(95/01)、タゲリ(97/02)、クサシギ(95/01)、カワセミ(96/12)、タヒバリ(98/02)、サンショウクイ(95/05)、コマドリ(95/06)、メボソムシクイ(95/06)、センダイムシクイ(95/05)、サンコウチョウ(95/09)、ミヤマホオジロ(97/02)、アトリ(97/01)〕、〔約7割以上の鳥(出現率):キジバト(91.6%)、コゲラ(68.3%)、ヒヨドリ(91.9%)、シジュウカラ(86.8%)、ホオジロ(71.3%)、スズメ(95.5%)、ムクドリ(68.6%)、ハシブトガラス(91.6%)〕

仕事が忙しくなり、観察回数が年々減少しているためかも知れませんが、他の季節と比べて夏の種類数の減りかたが気になります。

前回の報告の後で判ったのですが、この辺りでは野鳥を飼育することが一種の文化として残っているようです。今でも、オオルリとコマドリがそれぞれ別の家で大切に飼われていて、美しい声で囀っています。でも、その囀りが自然の中から聞こえてきたらもっと素晴らしいのにと考え、心を痛めるのは我々だけなのではないでしょうか? 近年、各地で夏鳥の減少が取り沙汰されています。その一因として野鳥の密猟・取り引きが挙げられますが、これを取り締まったところで真の解決にはならないような気がします。探鳥会を通じて、自然の中にある野鳥の素晴らしいさを一人でも多くの人に感じてもらい、そのことが自然環境への関心につながり、ひいてはエネルギーの無駄使いや廃棄物の大量生産の歯止めになればなあ…などと考えてしまいます。

(浅見 徹)



鳥種別出現率 出現率:◎(>=50%), ○(20<□<50%), △(<=20%)

注) 冬: 前年12月~当年2月、春: 3~5月、夏: 6~8月、秋: 9~11月

No.	鳥種名 (観察回数→)	1995年				1996年				1997年				1998年		全期間集計	
		冬 31	春 38	夏 32	秋 33	冬 38	春 24	夏 25	秋 23	冬 25	春 17	夏 6	秋 11	冬 11	春 20	出現回数 (334回中)	出現率 (%)
1	カウ		△		△	△					△			△	△	13	3.9
2	コサキ	△		△	△	△				△			△			20	6.0
3	カルガモ	△	△	△	△	△	○				△		○		○	38	11.4
4	コガモ				△	△			△							3	0.9
5	オオカ	△				△			△							5	1.5
6	サバ		△						△						△	3	0.9
7	コジユカイ	△	△	△	△	△	○	△	△	△				△	◎	57	17.1
8	キジ	△	○	△	○	△	△	△		◎		○	△	◎		67	20.1
9	コトドリ														△	3	0.9
10	カウ			△			△	△			△					10	3.0
11	アオガラ	△				△							△			3	0.9
12	アオガラ	△	△			△			△	△			△	△		15	4.5
13	ヒバリ		△			△	○	△			△	△			◎	33	9.9
14	ツバメ		○	◎	△		○	◎			○	◎			◎	79	23.7
15	キセキレイ				△	△			△	△			○			13	3.9
16	ハクセキレイ	◎	○	○		○	◎	△	○	◎	◎		○	◎	◎	146	43.7
17	セウロセキレイ	△	△	△		△	△		○	△	△		△	○	△	24	7.2
18	モズ	○	△	△	○	○			○	△			○	○		61	18.3
19	ミソサザイ					△			△	△						3	0.9
20	ルビタキ	△								△						7	2.1
21	ジョウビタキ	△			△	○	△		△	◎	△		○	△		40	12.0
22	トラツグミ	△				△				△						7	2.1
23	アカハラ	△	△				△			△						7	2.1
24	シロハラ	○	△			○	△		△	△				○	△	42	12.6
25	ツグミ	◎	◎			◎	◎		△	◎	◎			◎	◎	147	44.0
26	ウグイス	△	△	△	△	○	○		△	○	△		△	○	○	56	16.8
27	オオソシキ		△	○			○	◎			○	○			○	51	15.3
28	キイタダキ	△	△						△	○	△		△	△		28	8.4
29	キビタキ		△					△							△	3	0.9
30	エナガ							△	△	△	△	△				10	3.0
31	コガラ												△	△		2	0.6
32	ヒガラ	△	○						△	△	△					24	7.2
33	ヤマガラ	△	△						○	△	○		△			24	7.2
34	メジロ	◎	○	△	△	◎	○	○	◎	◎	○		○	◎	○	140	41.9
35	カシラダカ	○			△	◎	○			◎	○		△	◎	○	72	21.6
36	アオジ	○	○		○	◎	◎		○	◎	◎		○	○	◎	147	44.0
37	クロジ				△	△										4	1.2
38	カラヒタ	◎	○	○	△	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	179	53.6
39	マヒワ	△								○	△					11	3.3
40	シメ	○	○		△	○	△		△	○	△			○	○	59	17.7
41	カス	△	○		○	◎	○		◎	◎	○		◎	○		112	33.5
42	オガ	○	△	○	△	○	○	△	△	○	○			△	◎	80	24.0
43	ハシボコガラ	○	○	△	○	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	168	50.3
-	出現種数	39	37	25	30	37	33	21	34	40	37	14	28	30	30	-	-

1回だけ観察された鳥 : 14種

出現率60%以上の鳥 : 8種

合計観察種数 : 65種

サバンナシトドでした

井上暁子 (久喜市)

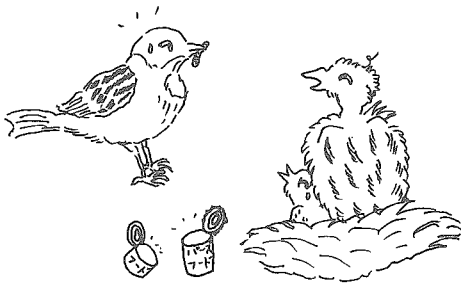
「うちの近くに変わった鳥がいるらしい。双眼鏡を持った人達が沢山来ているよ」という話を実家の母から聞いたのは、3月のことでした。

母は「野鳥の会に入っているんだから、知っているだろう」と言うけれど、私は何も知らないし、新聞報道も知りませんでした。

近所の酒屋の息子さんは、「その鳥なら、毎朝庭でうるさいくらい鳴いている」と言っていたそうです。

ちょうどその直後、私は出産して実家に帰りました。外に出ることはできませんが、運が良ければ、実家の庭に姿を見せてくれるのではと思いましたが、結局その夢はかなわず、ずっと今まで心の中がモヤモヤしたままでした。

今回『しらこぼと』6月号でサバンナシトドのことを知り、やっと気持ちがすっきりしました。母にも教えることができます。



(忍田歳子)

三宅島探鳥会に初参加しました

佐藤弘一 (入間市)

「おっ、三宅島か」

行事案内を見ていた私は、探鳥会へ参加するというより、三宅島に行けるといいう旅行の方に魅力を感じて、すぐ申込みをしました。昨年9月に入会して以来、まだ一度も探鳥会に参加したことがない全くの初心者で、フィールドスコープどころか、双眼鏡さえ持たず、着替えのみを持参しての探鳥会初参加となりました。

三宅島といえば、数年前にNLP (ナイ

ト・ランディング・プラクティス、いわゆる米軍の夜間離着陸訓練) が話題になり、私はその時にアカコッコの存在を知って、以来、いつかは三宅島に行こうと決めていたのです。

初めて参加した私に対し、参加者の方全員があたたかく教えて下さり、非常に楽しい探鳥会でした。

アカコッコやそのほかたくさんの種類の野鳥を見ることができた以上に、たくさんの鳥仲間を得ることができた方が、私にとっての何よりの成果となりました。

初めての白馬山麓探鳥会

栗原嘉寿男、敬子 (大宮市)

キーコーヒー！ のどかな鳴き声のイカル。ピールリピールリ、ジジ。林に響くオオルリの澄んださえずり。これらの姿を一度も見たことがなかった。何とかして見てみたい。初心者知識乏しい私達には場違いかもしれないと思いながら、白馬山麓探鳥会に申し込んでみた。参加決定！ 喜びと不安が交差した。しかし、不安は取越しだった。親しみやすいリーダーの様子で、すぐにリラックス。何でも質問できた。リーダーはどなたも生き字引。

この機会に見られるものは逃がすことのないよう、耳目を属して先輩のスコープの動向を察知し、空席を見つけて素早く覗くことにした。首に下げた双眼鏡はほとんど飾り。オオルリ、ヤマガラ、ノジコ、ノビタキ、ノスリ、それにモズの求愛シーン。初めて見た野鳥に加え、広葉樹のてっぺんにクマ自身が作ったという“クマダナ”がいくつもあって驚いた。

夕食後、先発していた土田さんの朗報「アカショウビンを見た！」に歓声が沸き上がった。私達も見られることを期待して、翌早朝アカショウビン目指して出発。キョロロロ…聞こえた！ ドキドキしながら声のする方へ移動。林の中で静かに待った。しかし声はだんだん遠ざかり、残念ながらとうとう聞こえなくなってしまった。何とも去りがたい気分。そこにミソサザイの声。「見たいなー」

「見たことないの？」と土田さん。アッという間にズームイン！ 会えないものと諦めていた憧れの小さな小さなミソサザイが、スコープの中で体いっぱい声にして歌っているではありませんか！ まるで魔法の技術に感激！

フィナーレは夢の山小屋“にほめの一步”渡辺さんの仲良しイカル、アカゲラ、カワラヒワ達が餌台に勢揃い。

2日間、白馬三山の雄姿がくっきり望まれた小鳥の国で、メインリーダー町田さん始め、先輩の方々に色々のご指導をいただき、我々ヨチヨチ夫婦は心の財産をあふれるほど持ち帰った。



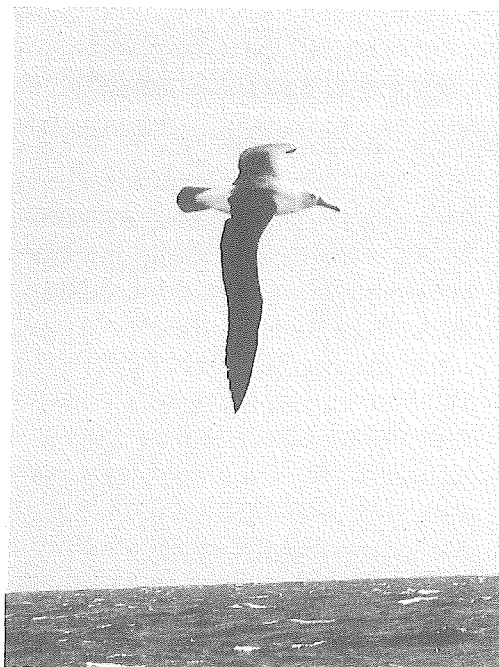
オーストラリアの鳥見ツアー
角田さみ子（岩槻市）

昨年の8月下旬、『野鳥』誌に出ている旅行会社主催のオーストラリア南東部の鳥見の旅に初めて参加しました。

ツアーで観察できた総種類数は250～270種。夜、食事後の「鳥合わせ」なるものも初めてで、ちょっとあわてました。皆さんが真面目なのにも驚きでしたが。

シドニー沖合い50kmくらいの海上では、カツオドリ・ミズナギドリ・アジサシ・アホウドリなど、さまざまな海鳥に出会いました。実に大きくて、近くに寄って来ると、皆んなで「わぁー」と大声でした。写真は、その時に撮影したアホウドリ類の1羽です。

日本のアホウドリも、今春131羽の雛がかえったということで、2000年にならずして1,000羽達成の様子で、まさに、自然も人の力や知恵でなんとか守ることができるという証しですね。いろいろな問題に大勢の人々の



協力で、手を取り合って行きたいものです。

聴こえました。コノハズクの声
喜多峻次（小川町）

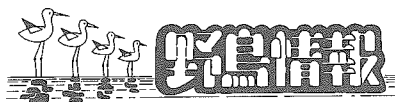
5月31日、両神山で開かれた1泊探鳥会に参加しました。白井差口からの登山はハードですが、草花なども豊富で、それなりの楽しさがありました。新装なった清滝小屋で、夜8時頃から待機。

8時半、遠くの方でかすかに「ブッキョッキョ」が聴こえてきて盛り上がりました。小屋の主人の話によれば、去年は小屋の前で啼いたとのこと。対面した事もあったそうで、「今年は遠いなァ」と言われましたが、まァ満足。姿の方は、小屋にある精巧な置物で、見たということにしました。

1998年夏「鳥の目から環境を調べよう！」
調査はがきご回答のお願い

日本野鳥の会埼玉県支部研究部
調査はがきを同封しました。5月10日から7月10日までの間に、自宅から半径50m以内で観察された鳥を記入して、切手を貼り、ご回答をお願いします。

調査の性格上、ドバトなどのいわゆるかご抜けの種もご記入ください。



東秩父村二本木峠 ◇4月11日、センダイムシクイ1羽、まだ木々に葉が繁っていないので、さえずっている様子がじっくり観察できた。イカル約20羽、登谷牧場横の斜面林で枯れ葉をひっくり返したりして採餌。また、互いにジャレあって遊んでいるといった様子だった。美しいさえずりがずっと聞こえていた。マヒワ3羽、キャンプ場下の林の木の頂で枯れた実をついばんでいた。カケス1羽、キャンプ場上の東屋で休憩中、あちらへ行ったりこちらへ来たり、しばらく回りを飛び回っていた。アオゲラのような鳴き声をまねてビックリした。ヒガラ1羽、エナガ、アトリ（後藤康夫・喜久子）。◇5月3日、センダイムシクイ1羽、コサメビタキ4～5羽。イカル2羽、峠全体に響きわたるようなきれいなさえずりが聞かれた。ヤマガラ2羽、アオゲラ、アカゲラ（後藤康夫）。◇5月10日、キビタキ♂3羽♀2羽、コサメビタキ1羽、センダイムシクイ1羽、ヤブサメの鳴き声、イカル4～5羽（後藤康夫・喜久子）。◇5月17日、イカル2羽、オオルリのさえずり、センダイムシクイ1羽、コサメビタキ抱卵中。キビタキの♂が、時々近くに来ては、コサメビタキにチョックイをだしているようだった（後藤康夫）。

川口市差間 ◇4月12日、休耕田でクイナ1



大久保農耕地（1997年7月）

羽。4月19日、チュウシャクシギ1羽、カシラダカの小群（星崎杉彦）。

熊谷市大麻生 ◇4月12日午後3時頃、ゴルフ場横でニューナイスズメ12羽。荒川河原でセッカ1羽（後藤康夫）。

嵐山町花見台工業団地 ◇4月12日、造成地でコチドリ2羽が飛び回っていた（後藤康夫）。

狭山丘陵いきものふれあいの里センター

◇4月18～20日、コマドリ1羽（小林ますみ）。◇4月23日、ビンズイ1羽。一瞬目を疑ったが、確かにビンズイであった（小林ますみ他1名）。◇5月4日、キビタキ（小林茂）。◇5月8日、ツツドリ（小林ますみ他1名）。

吉川市曾根 ◇4月19日午後2時、ヒバリがあちこちでさえずる中、コミミズク1羽。コアジサシ4羽。そういえば、ここは、昨年コアジサシの繁殖地だった。コチドリもピオー、ピオーと鳴いて飛びまわっていた。チョウゲンボウ♂1羽。足に獲物をぶら下げていた（山部直喜）。

浦和市秋ヶ瀬 ◇4月23日、野鳥園でオオルリ♂1羽、アカハラ1羽。ピクニックの森でカイツブリ親鳥2羽、幼鳥4羽。アオジ5羽（後藤康夫・喜久子）。◇5月10日、大久保農耕地A区でチュウサギ5羽、ムナグロ20羽、キアシシギ5羽、チュウシャクシギ7羽。B区でムナグロ4羽、アマサギ1羽（星崎杉彦）。◇5月23日、B区の荒川運動公園に近い池の周りでヨシゴイ2羽。中央のやや広い農道の北側でコヨシキリ1羽。良い声で鳴いていた（倉林宗太郎）。

大宮市日進町1丁目 ◇4月24日、センダイムシクイ1羽。27日、ビンズイ3羽（終認）。28日、アカハラ1羽。5月1日、アカハラ1羽、14日、セッカ1羽。牧草地で鳴いていた（森本國夫）。

富士見市南畑 ◇4月25日午後1時～3時、ムナグロ飛来。空に1500羽位、田んぼに150羽位（杉原みつ江）。

熊谷市荒川 ◇4月29日、荒川大橋から久下橋間でコガモ25羽（森本國夫）。◇5月3日、荒川大橋～熊谷大橋間でミサゴ1羽、

チョウゲンボウ1羽(森本國夫他数名)。
 蓮田市黒浜江ヶ崎 ◇4月29日、水田でムナ
 グロ1羽(道祖土修一)。
 戸田市戸田公園 ◇4月30日、クロジ♂1羽
 (高橋達也)。
 川本町荒川明戸堰上流 ◇5月2日、コチド
 リ3羽、イカルチドリ3羽、チョウゲンボ
 ウ1羽、オオヨシキリ、ダイサギ夏羽2
 羽、アオサギ3羽、カケス1羽(後藤康
 夫・喜久子)。◇5月17日、コアジサシ1
 羽、クサシギ2羽、イカルチドリ1羽、ト
 ビ1羽(後藤康夫)。
 秩父市青少年総合野外活動センター ◇5月
 3日、コルリ、ツツドリ、センダイムシク
 イ(島田康行)。
 春日部市旧倉松川 ◇5月4、5日、国道16
 号線より北側でコアジサシ2羽。何度もダ
 イビングしていた(門谷直樹)。
 横瀬町民の森 ◇5月10日、ツツドリが稜
 線の木の見やすい所で鳴いていたので良く
 観察できた。メボソムシクイ、クロツグ
 ミ、ヤブサメ、ジュウイチ、コルリ、キビ
 タキ(小林茂・ますみ他2名)。◇5月23
 日、コルリが多い。警戒音をだしていた♂
 1羽を見ることができた。ジュウイチが盛
 んに鳴いていた。この声は、母親がジュウ
 イチ君を叱っているようだ。最後は「いい
 かげんにしなさい!」かな(小林茂・ます
 み他)。
 越谷市県立しらこぼと水上公園 ◇5月
 16日、西側のレンゲ畑北側の荒地でケリ
 3羽。22日にも2羽(大塚操)。
 嵐山町笛吹峠 ◇5月16日、オオルリ、ホト
 トギス(後藤康夫)。
 浦和市本太 ◇5月21日午前10時頃、自動車



クマガラ(手塚 正義)

で信号待ちしていたところ、上空からハシ
 ブトガラスが降りて来て、歩道上でキジバ
 トを捕まえた。キジバトは必死になってバ
 タバタしていたが、すぐに、動かなくなっ
 てしまい、羽をむしられていた。どうやら
 若鳥のようだった(藤原寛治)。
 蓮田市黒浜沼 ◇5月22日、上沼でコアジサ
 シ1羽。数度のダイビングを見ることがで
 きた(道祖土修一)。
 大宮市大宮第2公園 ◇5月24日、ひょうた
 ん池でコアジサシ1羽。ホバリングして餌
 をとりました(渡辺光行)。
 浦和市大崎 ◇5月27日、見沼田んぼでカッ
 コウの初鳴き(藤原寛治)。
 三郷市江戸川 ◇6月5日、J R武蔵野線鉄
 橋~排水機場間でコヨシキリ1羽。オオヨ
 シキリがさえずっている中、ソプラノのさ
 えずりが印象的。ヨシゴイ2羽が中洲から
 飛び立つ(岩瀬和志)。
 大宮駅西口広場 ◇6月6日、チョウゲンボ
 ウ3羽。1羽は幼鳥のようだった(長谷部
 謙二)。

表紙の写真

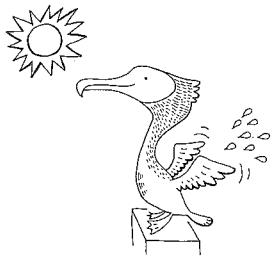
キビタキ(ヒタキ科ヒタキ亜科)

編集部に入っている写真の中から、今月は
 大分前から保管されていた菱沼一充さん(板
 橋区)のビデオプリントを選びました。

最近何人かに送って頂いた写真もあるので
 すが、撮影してから1~2ヵ月して発送する

と、実際に使いたい時には、数ヵ月のずれが
 起きてしまいます。ですから、今手もとに集
 まっているのは、冬鳥や春の鳥が多く、7月
 号の表紙にはどうも、とになってしまう訳で
 す。難しいものです。(海)

行事あんない



(何森 要)

お知らせ

7月4日(土)に予定していました上尾市八枝神社のアオバズクを見る探鳥会は中止にします。

アオバズク夫婦にアクシデントがあり、リーダーは心配して観察を続けているのですが、この行事案内原稿を書いている6月なかば現在、姿が見えません。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：7月12日(日)

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乗車

担当：和田、森本、中島(章)、石井(博)、倉崎、松本、中里、高橋

見どころ：厳しい暑さの中で、鳥達はどのように過ごしているのでしょうか。ちょっと覗いてみませんか。毎年のごとですが、この時期は鳥も少なくなります。じっくりと見るには一つのチャンスです。ぜひ防暑対策をしてご参加ください。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：7月19日(日)

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時 浦和市立郷土博物館前。

後援：浦和市立郷土博物館

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

担当：楠見、福井、手塚、伊藤、渡辺(周)、笠原、倉林、若林、岡部、兼元、森

見どころ：今年前半の三室は天候に恵まれず、探鳥会が中止の多い年になりました。でも、カルガモはアシの中で子育てを行い、バンもかわいい子供に餌をやっていました。梅雨明けの見沼には、一面の緑と青い空がひろがっています。木陰で涼をとりながら、風の声を聞いてみましょう。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：7月19日(日)

集合：午前9時40分 森林公園南口入口前

交通：東武東上線森林公園駅下車、森林公園南口行き9:17発バスに乗車、終点下車

費用：入園料400円(子供80円)

担当：佐久間、内藤、藤掛、青山、島田、喜多、後藤

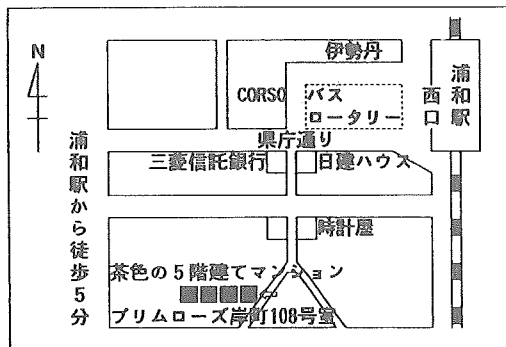
見どころ：毎年のごとですが、この時期鳥達は少ない。その代わりと言ってはなんですが、蝶、昆虫、夏の花とウォッチングの幅を拓げて覗いていきます。国蝶のオオムラサキも優美な姿を見せてくれます。暑い夏、体調を整えてお出かけください。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：7月25日(土)午後1時~2時頃

会場：支部事務局108号室

案内：長い梅雨が明けたようです。五月晴れの日もまるでなく、6月に入るとすぐに梅雨入りでうとうしい日が多かった。明け十日の好時期到来で自然を満喫に出かけたい処ですが、飛べないしらこぼとも27日には旅に出たいと申しておりますので、本日のひととき、旅支度のお手伝いをお願いします。



狭山市・人間川定例探鳥会

期日：7月26日（日）

集合：午前9時 西武新宿線狭山市駅西口

交通：西武新宿線本川越8:42発、または所沢8:36発に乗車

担当：長谷部、高草木、藤掛、石井（幸）、小野、中村（祐）、山本、久保田

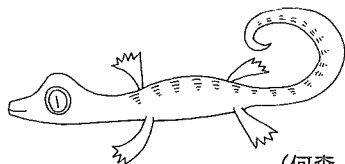
見どころ：この探鳥会は身近なところで、身近な鳥達の観察をすることでスタートをして、回を重ねてきました。中でも夏は厳選した身近な鳥達の観察となります。唯一の見どころはカワセミ。現在15回連続出場中です。炎天下です。帽子、水は必携です。

◆8月の行事予定

8月2日（日）・北本市石戸宿定例探鳥会

8月30日（日）・リーダー研修会

研修会参加者を募集！ 詳細は来月号で。



(何森 要)

おまけの情報コーナー

諫早干潟緊急救済東京事務所企画の九州干潟エコツアー'98

諫早湾干潟をはじめ、曾根、和臼、鹿島という九州北部の代表的な干潟を訪れ、干潟の豊かな価値を再認識し、各干潟が直面している問題を知るためのツアーです。

東京からWWFジャパンの花輪伸一氏が講師として同行し、現地では、環境保護に貢献した人に贈られる世界的な賞、ゴールドマン環境賞を受賞した山下弘文諫早干潟緊急救済本部代表が案内します。

移動を始めた渡り鳥たちに出会うバードウォッチングや干潟遊びに加えて、干潟掃除などのボランティア活動への参加や雲仙観光などの予定もあり、夏休みの家族旅行に最適と呼びかけています。

日時：8月28日（金）～30日（日）の2泊3日

募集人数：23名（最少催行人数大人15名）

費用：東京発（羽田空港集合解散、添乗員同行）大人69,800円、子供（3歳以上12歳未満）54,800円。

現地集合（小倉駅集合、諫早駅解散）大人39,800円、子供29,800円。

宿泊予定施設：1日目国民休暇村志賀島（男女別和室） 2日目諫早パークインまたは同等クラス（男女別和室またはツイン）

費用に含まれるもの：東京発の往復航空運賃・宿泊代・食事（朝2回、夕1回）・現地移動の貸し切りバス代

申込締切：7月24日（金）

申込先：メープル・ツアーズ（担当：大村）

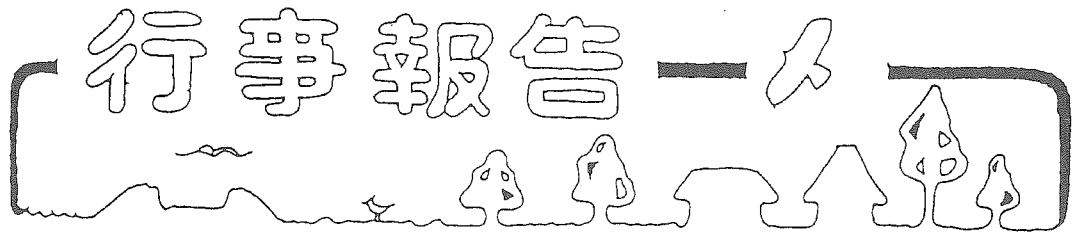
〒105-0014 港区芝公園2-3-8

TEL 03-3437-6266 FAX 03-3436-3670

協力：(財)世界自然保護基金日本委員会（WWFジャパン）、(財)日本野鳥の会、曾根干潟を守る会、和臼干潟を守る会、諫早干潟緊急救済本部

諫早干潟緊急救済東京事務所の連絡先は、12ページに掲載しました。

行事報告



3月22日(日) 狭山市 入間川

参加: 29人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ カルガモ コガモ ハシビロガモ キンクロハジロ トビ オオタカ コジュケイ イソシギ タシギ キジバト カワセミ アオゲラ コゲラ ヒバリ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ シロハラ ツグミ キクイタダキ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (40種) 今回記録された鳥の中で、夏に向けて繁殖地へ帰ってしまう鳥たちは、シロハラやカモ類など11種。鳥が多ければ自然と盛り上がる探鳥会だが、鳥不足と暑さはリーダーの大敵。夏に備えて鳥以外の新しいネタを仕入れなければ。

(長谷部謙二)

3月28日(土) 栃木県 日光東照宮裏山

参加: 37人 天気: 晴

オシドリ トビ キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ カワガラス ミソサザイ カヤクグリ ジョウビタキ ツグミ キクイタダキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ アトリ カワラヒワ ベニマシコ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 東武日光駅の駅舎には沢山のイワツバメが営巣し、春を告げていた。大谷川では、オシドリの♂、カワガラス、キセキレイを間近に見ることができた。稲荷川沿いでは、アオゲラが木に止まり、ミソサザイも盛んにさえずり、何度も姿を見せてくれた。カヤクグリ、ヤマガラ、キバシリなど、結構鳥も多く、春の一日を十分楽しめた。

(中島康夫)

3月28日(土) 『しらごと』袋つめの会

ボランティア: 15人

新井良夫、荒木恒夫、岩上照代、海老原教子、大坂幸男、佐久間博文、島田恵司、島田沙織里、志村佐治、橋口長和、藤野富代、増尾隆、松村禎夫、百瀬修、森力

3月29日(日) 行田市 さきたま古墳公園

参加: 66人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ コガモ ハシビロガモ オオタカ コジュケイ シラコバト キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) 3月末というのに鯉のぼりのあがりそうな暖かい日。公園は家族連れで沢山の人が出た。例年に比べれば、カモの数も多かった。スタートしてすぐにシメ、カワセミと出てくれ、盛り上がった。終わって見たら34種。さきたま古墳初観察のシラコバトを何人かの人が見られた。

(内藤義雄)

4月5日(日) 浦和市 民家園周辺

参加: 78人 天気: 晴

カワウ ダイサギ コサギ カルガモ コガモ トビ コジュケイ キジ コチドリ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 晴れて暖かく、風もない、絶好の花日和。ヘルシーロードコースを歩いた。80人近い人が参加して、どうなることかと思ったが、桜も満開、鳥たちもボチボチ出てくれて、無事に終了。

(伊藤芳晴)

4月12日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 74人 天気: 曇

カワウ コサギ アオサギ カルガモ トビ オオタカ ハヤブサ チョウゲンボウ コジュケイ キジ セグロカモメ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ ニュウナイズメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 桜の花も終わりかけた土手をニュウナイズメを求めて久々に野鳥の森方面へ。お目当てのニュウナイズメはごく少数の人しか見られなかったが、上空にトビ、ハヤブサ、オオタカの3種が同時に舞ったり、チョウゲンボウ、オオタカがしばしば現われて十分に楽しませてくれた。また3月より運行を開始したSLにも参加者の皆さんが歓声を上げていた。(和田康男)

4月19日(日) 浦和市 三室地区

参加: 61人 天気: 晴

カワウ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オオタカ キジ バン コチドリ ユリカモメ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ツグミ ウグイス セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ カラワヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) 今年初めての快晴の探鳥会で、やはり気持ちがいい。郷土博物館の館長さんや職員の皆様にはいつもお世話になっていますが、今回富澤館長さんが着任しました。最初から、可愛いバッグを背負っての参加。大空には、オオタカ、新緑の見沼たんぼの探鳥会でした。

(楠見邦博)

4月25日(土) 『しらこぼと』袋つめの会

ボランティア: 23人

荒木恒夫、海老原教子、大坂幸男、尾崎甲四郎、忍田歳子、後藤康夫、後藤喜久子、佐久間博文、島田恵司、島田沙織里、志村佐治、高剋宏、高文子、田中幸男、新部泰治、橋口長和、橋口知枝、藤野富代、前澤明男、増尾隆、松村禎夫、山野豊、山野庸子

4月26日(日) 東松山市 物見山

雨のため中止。

4月26日(日) 浦和市秋ヶ瀬 大久保農耕地

雨のため中止。

4月29日(水、休) シギ・チドリ類調査

ボランティア: 15人

浅見徹、石井智、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、久保田忠資、倉林宗太郎、小林孝太郎、佐久間博文、竹内設雄、中村隆、福井昭子、福井恒人、藤掛保司、渡辺泰子

4月29日(水、祝) 春日部市 内牧公園

参加: 40人 天気: 晴

カワウ アマサギ ダイサギ カルガモ ムナグロ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ シジュウカラ メジロ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (22種) いつもの逆コースとした。スタートした直後アマサギを見付け、探鳥会初認で感激して見る。たんぼのコースに入り、お目当てのムナグロを確認し、皆でじっくり観察する。シメ、カワラヒワなどを見て雑木林に入る。林の中の鳥が少ない。参加者40名と過去最高であったが、出現鳥が少ないのが心残りであった。(吉安一彦)

5月5日(火、休) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加: 85人 天気: 晴

カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ バン シロチドリ メダイチドリ ムナグロ ダイゼン キョウジョシギ トウネン ハマシギ オバシギ アオアシシギ キアシシギ イソシギ オグロシギ オオソリハシシギ ダイシャクシギ チュウシャクシギ アカエリヒレアシシギ ユリカモメ コアジサシ キジバト ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ メジロ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (41種) のどかな干潟の風景も、ハヤブサが出現すると一転、ダイナミックな世界に変わる。約2000羽のハマシギや他のシギ・チドリの乱舞はものすごい。ただし、終了後だったのが残念! (杉本秀樹)

タイトル募集!

このコーナーのタイトルを募集します。

現在程度の縦横比で描いたものを編集部まで。

連絡中長

●海上の森を守る運動のその後

昨年11月号本欄でご紹介した署名活動に、全国から約3万3,000人の署名が寄せられました。ご協力ありがとうございました。

また、日本野鳥の会愛知県支部からは、昨年度のバードソン「甞れ！里山」募金の助成を受けて作成した海上の森カラーマップが送られてきました。〒460-0007 名古屋市中区新栄1-47-27、丸太ビル303 (TEL兼FAX 052-241-3440) の同支部に必要部数を申し込みれば無料で送られますので、ご活用ください。

なお、カンパの宛て先は「郵便振込00850-7-67861万博オンブズマン」です。引き続きご協力をお願いします。

●諫早干潟緊急救済東京事務所移転

専従スタッフを置くのをひとまず終了し、ボランティアを主体に活動の長期化に備えるため、連絡先を変更しました。

新住所は〒171-0032豊島区雑司が谷3-7-3、ベルビュー目白701。連絡事務担当者、矢嶋悟。TEL兼FAX は03-3986-6490です。

電子メール isahaya@msj.biglobe.ne.jp とホームページ http://www2s.biglobe.ne.jp/~isahaya/ は変更ありません。

9ページのお知らせも御覧ください。

●荒川南部鳥獣保護区設定に意見書提出

従来銃猟禁止区域であった秋ヶ瀬公園付近を荒川南部鳥獣保護区とする事について、浦和市から意見を求められ、支部として賛成の意見書を提出しました。

●会員の普及活動(敬称略)

5月3日(日)「熊谷の自然を楽しもう！アズ・ファミリーウオーク」に協力して定点野鳥観察会を実施。指導：榎本秀和・大坂幸男・島田恵司・中里裕一・中島章二・逸見嶮・松本生男・森本國夫・和田康男。参加者

約300名。

5月27日(水)浦和市田島公民館高齢者教室で講話「野鳥と親しくなってみませんか」。講師：陶山和良。参加者55名。

6月3日(水)関東信越税理士会浦和支部の定例会で講演「すぐ隣にいる野鳥たち」。講師：海老原美夫。参加者約100名。

●ごめんなさいコーナー

前月号2ページと9ページのカットの作者は、忍田歳子さんでした。

4ページのバードソン報告中、「武蔵丘陵森林公園の自然を守る会」は、「武蔵丘陵森林公園の自然を考える会」の誤りでした。

6ページの写真「ヤツガシラ(中国にて)」とあるのは、(与那国島にて)の誤りでした。

●7月の事務局 土曜と日曜の予定

11日(土)編集会議、研究部会議。

18日(土)校正作業。

19日(日)役員会議。

25日(土)袋づめの会。

●会員数は

6月1日現在3,063人です。

活動報告

5月23日(土)6月号校正作業(海老原美夫・喜多峻次・喜多彌生・桜庭勇)。

5月24日(日)役員会議(司会：高草木泰行、次期評議員の推薦・荒川南部鳥獣保護区設定に関する意見・総会準備など)。

編集後記

埼玉に舞い戻ってから1年が経ちました。仕事は充実しているけれども、ちょっと道が遠い感じ。「フリーのイラストレーター。略してフリーターです」などと言って笑いを取っていますが、時々話題になる「失業率」という言葉が気になります。(何森)

『しらこぼと』1998年7月号(第171号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336-0012 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
インターネットホームページ http://www.bekkoame.or.jp/ro/wbsj-saitm/

住所変更・退会などの連絡先 〒150-0036 渋谷区南平台町15-8 ウッディ南平台ビル2階
(財)日本野鳥の会会員センター TEL 03-3463-8842 FAX 03-3463-8844

印刷 関東図書株式会社

(本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)

再生紙使用